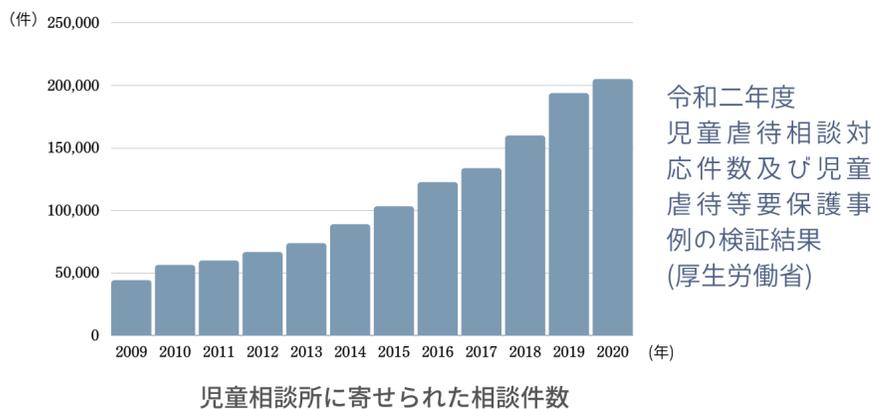


児童虐待をなくすために ～高校生の私たちができること～

To end child abuse
～ What we can do as high school students～

はじめに

日本の児童虐待の現状として、厚生労働省のデータより2020年度に児童相談所に寄せられた相談件数は約205,000件で過去最多だった。また、20代による虐待が一番多く、10代による虐待も起きている。



研究内容

① インスタグラムでの啓発活動



虐待に関する様々な情報を発信したり、同じ活動している方との情報交換などを行った。

② パンフレット制作

インスタグラムや病院の方に意見を頂き改良を重ねた。

対象年齢が子ども
(幼稚園児～高校生の為)
平仮名を用いる等工夫をした。

市役所や病院での設置



児童虐待がない社会を目指して
高校生が伝えたい「児童虐待」

初めまして!! クローバーワンです。
「児童虐待をなくしたい!!」 私たちはこの想いのもと、高校生の私たちができることに全力で取り組んでいます。その一歩として、このパンフレットの制作に取り組みました。そして、これをより多くの人々の手に届くということが、私たちの目指す「児童虐待がない社会」の実現に繋がります。

③ ポスター制作

目立つように虐待防止運動の
オレンジリボン運動の象徴
であるオレンジ色の使用した。

パンフレットと同じく
設置場所は病院、市役所



考察

議論の結果、私たちは啓発活動として、インスタグラム(@clover__one)の開設とパンフレット、チラシの製作に取り組むことにした。そして、現在はインスタグラムで児童虐待に関する情報の発信をしている。また、大阪市役所や区役所と連絡を取り、パンフレットやチラシを置いてもらう予定である。今後は、パンフレット、チラシの設置の効果を調査し、その結果を踏まえ、それらの改良を積み重ねていきたい。

今後について

- ・実際に、市役所にパンフレットやチラシを置いたことが啓発活動として一定の効果を成し遂げられたのかを調べる。
- ・啓発活動で世間の児童虐待対応施設に関する認知度が向上したうえで、児童虐待対応施設の仕事について調べる。そして、より迅速に対応出来るように業務内容についても研究も行いたい。

参考文献

- ・松本伊智朗『子ども虐待と家族』
- ・川崎二三産『児童虐待 現場からの提言』
- ・杉山春『児童虐待から考える』(朝日新書)
- ・法務省
https://www.moj.go.jp/jinkennet/asahikawa/pdf/jidou_gyakutai.pdf
- ・厚生労働省
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/index.html

謝辞

本研究を進めるにあたり、ご指導いただいた大阪市役所の皆様、その他ご協力頂いた皆様有難うございました。